

大阪中央局  
料金別納  
郵便

POST CARD

第一四半期の情報は、中面をご覧ください。



2007年度 第一四半期のご報告 2007年4月1日から2007年6月30日まで

# BUSINESS REPORT JEM TODAY



**JEM 日本電子材料株式会社**  
証券コード: 6855

〒660-0805 兵庫県尼崎市西長洲町二丁目5番13号 TEL.06-6482-2007  
<http://www.jem-net.co.jp>

TOP MESSAGE

ご挨拶

Mタイプの事業化と既存製品の競争力強化に全力を

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。2007年度第1四半期を終了しましたので、事業の概況をご報告します。

当第1四半期は半導体デバイスの価格下落に伴う顧客からの厳しい価格要請のもと、メモリーIC向けが市場の在庫調整のずれ込みや価格競争の影響を受け、売上・利益とも伸び悩み、業績予想の修正をせざるを得ない状況となりました。しかしながら、メモリーIC向けの受注は7月に入り順調に回復してきており、下期に向けては半導体市場の成長も見込まれています。

本年の業績を支えるための施策として、メモリーIC向けVCシリーズの製品競争力強化と、より一層の原価低減による受注拡大、並びにVSシリーズの拡販に努めてまいります。ロジックIC向けに関しては新針材を搭載したCEシリーズの拡販を積極的に推し進めます。

また、中長期的な取り組みとしては、Mタイプの事業化を進めており、当社MEMS技術の確立を市場に示すため、MAシリーズの受注獲得に注力しています。

本年度は、次世代プローブカードMタイプの事業化までの製品ラインナップの谷間の年にあたり、事業の環境は厳しいものがありますが、MAシリーズの受注と既存製品群の製品競争力強化に注力し、業績向上に向けて全力で取り組んでまいります。

今後とも皆様の暖かいご支援よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 坂根英生



TOPICS

Mタイプ事業化の近況

中期経営計画の核となる重点戦略は「Mタイプの事業化」です。ロジックIC向けのMタイププローブカード(MAシリーズ)については大手国内半導体メーカーにて最終テストをクリア。本年度からの本格的な市場投入を目指し、受注に向けて日々取り組んでいます。Mタイプは最先端技術であるMEMS技術を用いたプローブカードであり、この技術を用いたMAシリーズ製品化の実績をもとに、より大きな市場であるメモリーIC向けのMCシリーズの製品化を加速します。

定時株主総会のご報告



2007年6月22日(金)、尼崎市ホテルニューアルカイクにて第48回定時株主総会を開催しました。多数の株主の皆様にご来場いただき、4つの議案が可決承認され約50分で閉会しました。当日は当社製品のプローブカードを会場に展示。株主の皆様が当社製品を身近に感じ、より理解していただく機会になりました。今後も株主総会を通じて、皆様とのコミュニケーション作りを、積極的に取り組んでまいります。

〈ご報告の主な内容〉

- ◎事業報告 2004年度版中期経営計画の結果  
2006年度の業績概要…売上、経常利益、当期純利益が過去最高を更新
- ◎経営戦略 2007年度版中期経営計画および経営戦略
- ◎その他 株主数の増加(昨年度より約900名増加)

株主の皆様へお知らせ

株主優待について

当社の株主優待は年1回、9月末の株主の皆様を対象としております。優待内容は当社主力工場である熊本県七城町名産「七城のこめ」の新米で、保有株式数に応じてお届けしています(100株以上500株未満…2kg、500株以上1000株未満…5kg、1000株以上…10kg)。なお、お届けは12月ごろを予定しています。

JEM TODAYは年4回発行  
最新情報をお届けします

JEM TODAYは毎年4回、四半期ごとに発行しております。通期報告・第1四半期報告は3月末現在の株主様へ、中間期報告・第3四半期報告は9月末現在の株主様へお送りしています。

株式関係のお手続きは、お電話、HPにて。

株式関係のお手続き(住所変更・名義書換等)の用紙は、三菱UFJ信託銀行(株)の電話またはホームページで24時間ご請求いただけます。

電話: 0120-244-479 (本店証券代行部)

0120-684-479 (大阪証券代行部)

ホームページ: <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、証券保管振替制度をご利用の方は、お取引口座のある証券会社等にお問い合わせください。



POST CARD

第一四半期の情報は、中面をご覧ください。



2007年度第1四半期のご報告

事業環境

当社グループの主たる事業分野である半導体市場は、一部の半導体デバイスは堅調に推移したものの、一部デバイスでは価格の下落により半導体メーカーの設備投資が抑制されるなど調整局面も見られ、まだら模様で推移しました。特にメモリーICではNAND型フラッシュメモリー(電氣的に一括消去・再書き込み可能なメモリー)は需要の拡大により価格は下げ止まりましたが、DRAM(記憶保持動作が必要な随時書き込み読み出しメモリー)は供給過剰による価格下落が進みました。

売上・収益動向

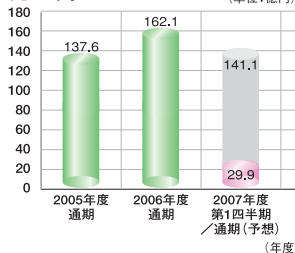
当社グループは半導体デバイスの価格下落に伴う顧客からの厳しい価格要請のもと、既存製品の原価低減を進めると共に、製品競争力の強化、更には次世代型プローブカードであるMタイププローブカードの事業化に向けて取り組んでまいりました。

しかしながら、昨年好調だったDRAM向けおよびNAND型フラッシュメモリー向けのアドバンストプローブカードVCシリーズが市場の在庫調整や価格競争激化の影響を受け売上が減少しました。また、LCD-Dr向けやシステムLSI向けのCEシリーズ(カンチレバ一型プローブカード)は安定した受注がありましたが本格的な売上拡大には至りませんでした。

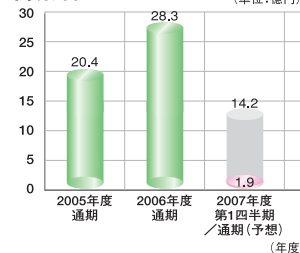
以上の結果、当第1四半期の売上高は29億9千9百万円(前年同四半期比25.5%減)、利益面は売上高の減少に伴う操業度の悪化に伴い、営業利益は1億9千1百万円(同77.1%減)、経常利益は2億3千8百万円(同72.7%減)、四半期純利益は9千4百万円(同81.4%減)となりました。

業績の概況

売上高



営業利益



業績予想

業績予想の修正のお知らせ

第1四半期の業績状況を勘案し、2007年5月16日に発表しました連結業績予想、個別業績予想に関して中間期、通期共に修正を行いました。

2007年度通期業績予想値の修正(連結)

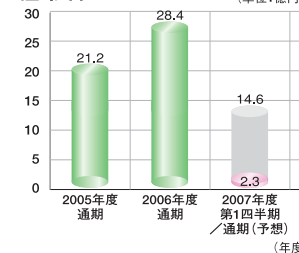
(2007年4月1日~2008年3月31日)

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成19年5月16日発表)	17,600	2,350	2,500	1,400
今回修正予想(B)	14,110	1,420	1,460	730
増減額[(B)-(A)]	△3,490	△930	△1,040	△670
増減率	△19.8%	△39.6%	△41.6%	△47.9%
前期実績(2007年3月)	16,216	2,830	2,843	1,765

なお、メモリーIC向けの受注は回復してきており、下期に向けては半導体市場の成長も見込まれています。今後も既存製品の競争力強化とMEMS技術を使用した次世代型プローブカードの「Mタイプ」の事業化に向けて取り組んでまいります。また、配当予想につきましては、上期10円、下期10円の年間20円に変更はありません。

経常利益



純利益

